

# 国語

## 1 はじめに

国語の教科書には、詩や説明文、物語、古文、漢文など様々な文章が掲載されています。また、教科書を使って、読んだり、書いたり、話したり、聞いたりする学習ができるようになっています。例えば、1年生の「読むこと」の学習であれば、詩「朝のリレー」、説明文「クジラの飲み水」などがあります。

皆さんに、国語で学んでほしいことは、「カムチャッカ半島とメキシコの位置関係」や「クジラの生態（せいたい）」ではありません。詩を声に出して読んだときに、「どうしてこんなに心に響くのだろう」という理由や、説明文を読んだときに、「どうしてこんなに分かりやすく伝えることができるのだろう」という言葉の秘密です。

つまり、国語の時間は「教科書を学ぶ」のではなく、「教科書で学ぶ」ということなのです。

さあ、休校中の今、教科書を使って「言葉」の秘密を探ってみましょう。

### 1 教科書の作品を音読しましょう。

声に出すと、リズムや言葉の響きのよさを味わうことができます。声の大きさや速さ、抑揚、強弱、間の取り方などを工夫して読んでみましょう。読む楽しさを感じられますよ。

### 2 分からない言葉の意味を調べたり、新出漢字の練習をしたりしましょう。

分からない言葉の意味を辞書で調べてみましょう。その言葉を用いた短文を作ってみるとよいですよ。また、新しく出てきた漢字は、読んだり書いたりすることができるようになりましょう。練習して書けるようになったら、自分でテストをしてみましょう。自分の学習の成果を確認できますよ。

### 3 調べたことや分かったこと、感じたことなどをノートに整理しましょう。

読んだ感想や分かったことをノートに書いてまとめてみましょう。教科書の「学びの道しるべ」や「読み方を学ぼう」を参考に、自分の考えを書いてみましょう。言葉で書き表すと自分の考えが整理でき、理解が深まりますよ。

### 4 言葉の働きや語句について調べてみましょう。

「主語」、「述語」などの言葉の働きや「表現技法」のよさや効果を知ったり、「類義語」、「対義語」「四字熟語」、「慣用句」などを調べて、普段の生活の中で使えるようになったりするとよいですね。

### 5 学んだことや分かったことを家族に伝えてみましょう。

学んだことや分かったことを家族に話してみましょう。人に話をすると、考えが整理でき、学びが定着しますよ。

### 6 名作を読んでみましょう。

教科書には、名作がたくさんあります。1年生の教科書には、芥川龍之介の「トロッコ」、2年生の教科書には、太宰治の「走れメロス」、3年生の教科書には、魯迅の「故郷」などが載っています。また、「枕草子」や「おくのほそ道」などの古典作品、「漢詩」や「論語」などの漢文もあります。教科書を読んで、「おもしろかったなあ」、「興味深いなあ」と思った人は、同じ作者の別の作品や同じジャンルの本を読んでみましょう。きっと読書の世界が広がりますよ。

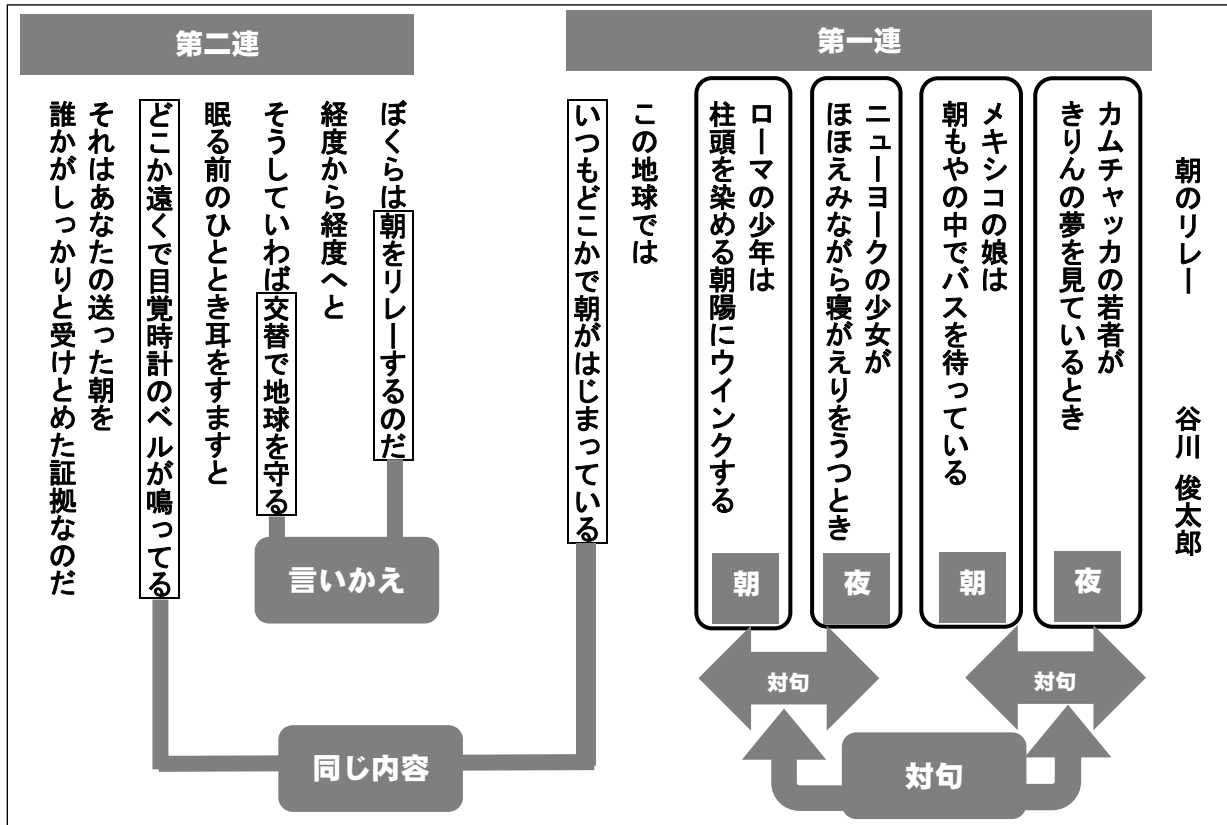
## 2 各学年の学習の進め方

### (1) 1年生の家庭学習の進め方



## 「朝のリレー 谷川俊太郎」(教科書P14)

### 解説



地球上で、いつもどこかで始まっている朝を「リレー」ということばで表現した壮大なスケールの詩です。「カムチャッカ」「メキシコ」「ニューヨーク」「ローマ」の位置を地球儀や地図で確認し、回る地球を思い浮かべながら音読しましょう。



#### 詩の種類

##### ①使われている言葉による分類

- 文語詩・・・文語体（昔の言葉）で書かれた詩
- 口語詩・・・口語体（今の言葉）で書かれた詩

##### ②形式上の分類

- 定型詩・・・音数に一定の決まりがある詩
- 自由詩・・・音数にとられない自由な形式の詩
- 散文詩・・・散文（文章）だが、詩情をもつ詩

「朝のリレー」は

## 口語自由詩

です

#### 発展課題

詩「朝のリレー」を音読しましょう。その際、「読む速さ」、「声の高さ」、「強弱」「抑揚（よくよう）」、「間の取り方」に気を付けてみましょう。



#### 【発展課題のヒント】

教科書P16「学びの道しるべ」を参考に学びましょう。

まず、どんな情景なのかを思い浮かべ、その情景に合う読み方を考えてみましょう。速く音読すると、「あせり」「緊迫」などの情景が伝わります。ゆっくり音読すると、「のどかさ」「平和」などの情景が伝わります。どのような音読をすればよいか工夫してみましょう。

# 「オオカミの友だち きむらゆういち」(教科書P18)



## 解説

6	5	4	3	2	1	場面
P23 L11 ~P23 L14	P22 L8 ~P23 L10	P20 L16 ~P22 L7	P20 L5 ~P20 L15	P19 L14 ~P20 L4	P18 L1 ~P19 L13	
クマの 思い出	川原の 魚捕り	崖の ふちでの 出来事	蜂の巣 捕り	トンネル の中の 出来事	クマとの 出会い	主な 内容
「でも、あのクマを思い出す クククって笑って、 二人で食べた魚のあじが 懐かしくなるそうです。」 ときだけは	「オオカミは なんだかすこく うれしくなって きました。」	「オオカミはクマが どんなやつなのか わからなくなって きました。」	「オオカミは ちよつとうれしくなって、 クマのほつを見ました」	「オオカミはハツと しました。」	「オオカミは用心して 『いや、知らないな。』 と答えました。」	オオカミのクマに対する 印象の変化

疑い深いオオカミが、強そうなクマと一緒に獲物を探すなかで、クマに対する印象を変化させていきます。オオカミの心内語(心の中で考えている言葉)が、作品を明るく和やかな雰囲気になっています。

### オオカミの心の中の言葉【一部】

"こいつ、いったいどういうやつなんだ。"  
 "一人でいるのがいちばん気楽でいい。"  
 "しまった。ここで後ろからかみつかれたら、いくらオレでも……。"  
 "わわ！ あ、危ない！"  
 "こいつ、後ろに棒でも持っているのかな。よし、その棒で襲ってきたら、  
 パツとよけてガブツと足にかみついてやる。"  
 "うふっ、こいつっておかしなやつ！"



### 発展課題

物語「オオカミの友だち」はオオカミの目線で描かれています。この物語を「クマ」を視点とした物語「クマの友だち」に書き直してみましょう。ただし、ストーリーの展開や内容、文の構成は「オオカミの友だち」とほぼ同じにしてください。



#### 【発展課題のヒント】

教科書 P24 「学びの道しるべ」を参考に学びましょう。

まず、登場する動物がなぜ「オオカミ」と「クマ」なのか考えてみましょう。次に、クマの「心内語」を考えてみましょう。「オオカミの友だち」はオオカミの心内語が描写されていますが、「クマ」の心内語が描かれていません。物語の流れに沿うようにクマの心内語を考えてみましょう。

#### 「クマの友だち」例

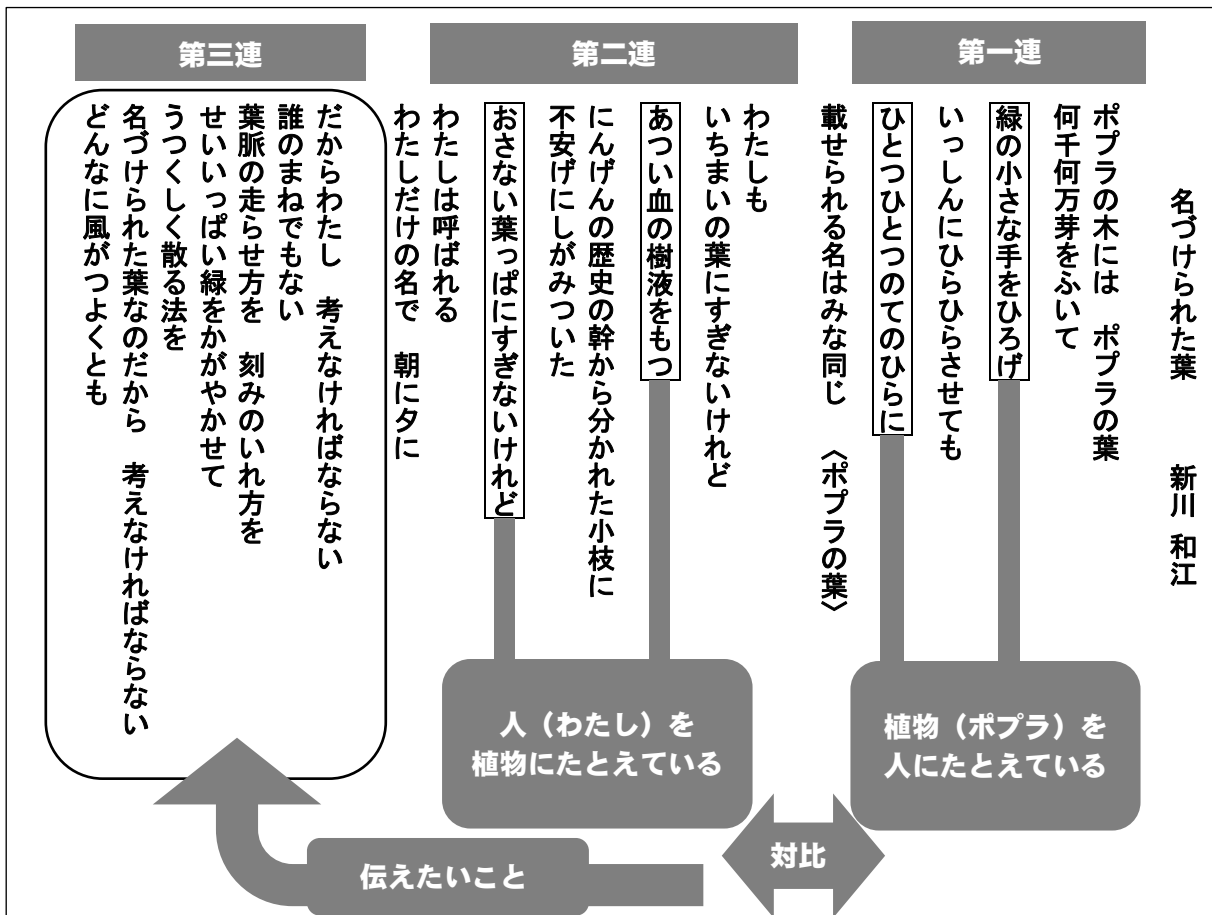
「だれか一緒に獲物をさがしてくれないかなあ。さみしいなあ。」  
 クマは、今日もそんなことをつぶやいて歩いていました。すると…

「なにか うまい獲物でもないかなあ。」  
 オオカミがつぶやきながら歩いてきたのです。それは、疑い深そうなオオカミでした。  
 ”よし、このオオカミと一緒に獲物をさがそう。”

# 「名づけられた葉」 新川和江」(教科書P14)



## 解説



「ポプラ」に「わたし」を重ね合わせ精一杯自分らしく生きることの大切さを表現した詩です。第一連では「植物(ポプラ)」を人にたとえ、第二連では「人(わたし)」を植物にたとえる、「対比」の構成になっています。第一連、第二連での対比が、第三連の「一人一人は小さな存在だが、一人一人が輝いて生きていかなければならない」という作者のメッセージへつながっています。



### 発展課題

詩「名づけられた葉」を読み、詩の内容を捉えた上で、次の観点から自分の好きな詩の紹介をしましょう。

- ・自分を励ましてくれた詩
- ・リズムやたとえなどの表現に特徴のある詩

国語ノートや自学ノートに書いてもよいし、パソコンで制作し、プリントアウトしてもよいです。



### 【発展課題のヒント】

P16「学びの道しるべ」を参考に学習しましょう。

「名づけられた葉」は人である「わたし」を植物のポプラにたとえています。このような技法を擬人法といいます。表現のよさやその効果を考えてみましょう。

# 「小さな手袋 内海隆一郎」(教科書P18)



## 解説

8	7	6	5	4	3	2	1	場面
P27 L11 ~L14	P24 L9 ~P27 L10	P23 L4 ~P24 L8	P22 L1 ~P23 L3	P21 L7 ~L19	P20 L15 ~P21 L6	P19 L1 ~P20 L14	P18 L1 ~L11	
帰り 病院からの	シホの来院	シホと おばあさん の別れ	シホと おばあさん の交流	病院での おばあさん の暮らし	誤解の 解決	シホと おばあさん の出会い	雑木林	内容
	二年半後 (小学六年【春】)		十一月 中旬	十一月	数日後	過去 六年前 (小学三年【秋】)	現在 シホ(中学二年生)	時間

「おばあさん」との偶然の出会い、交流、祖父との死別を通してシホが成長していく姿を描いた物語です。シホの父親である「私」が語り手となり、「私」が語るように描かれています。

題名が「雑木林の出来事」や「手袋」ではなく「小さな手袋」なのには理由があります。

次の文章は、シホがおばあさんが編んだ手袋を受け取る場面です。



### 教科書P26

手袋は、それほど長い日数をかけたにしては、あまりに小さかった。普通の五倍もかかるという苦しい思いをして、ようやく編み上げた手袋だった。

シホは小さな手袋を両手で包み、顔を強く押しつけた。かすかなおえつが漏れ出た。

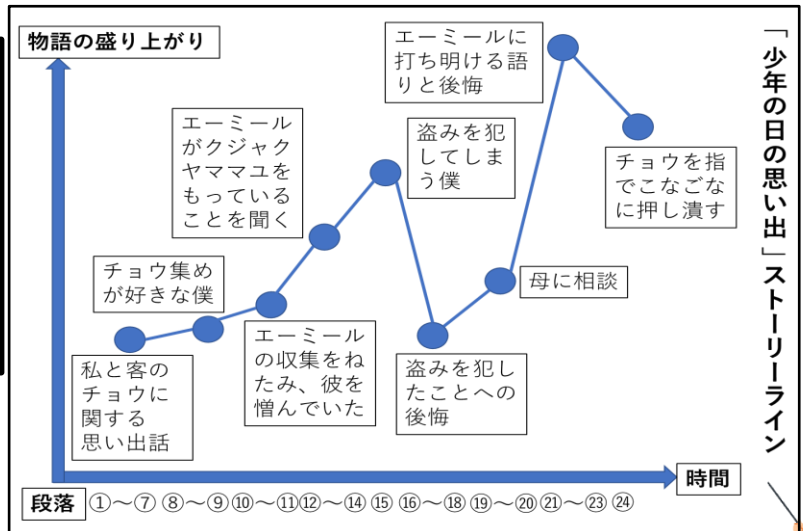
「小さかった」のは、おばあさんが大きさを間違えたものではありません。祖父の死後、雑木林から遠のいたシホが、2年半で成長したことを表現しています。そして、成長したからこそ感じ取れた大きな悲しみや後悔を「両手で包み」「顔を強く押しつけ」「かすかなおえつが漏れ出る」という描写でたくみに表現しています。

### 発展課題

物語「小さな手袋」を読み、例を参考にストーリーラインを書いてみましょう。ストーリーラインとは縦軸を「物語の盛り上がり」、横軸を「時間の流れ」とした、物語の流れを図に表したものを指します。国語ノートなどに書いてみましょう。

### 【発展課題のヒント】

教科書P29「学びの道しるべ」を参考に学習しましょう。ストーリーラインを書いた後、物語のクライマックスがどこになるのかを考えてみましょう。題名が「小さな手袋」であることがよく分かります。



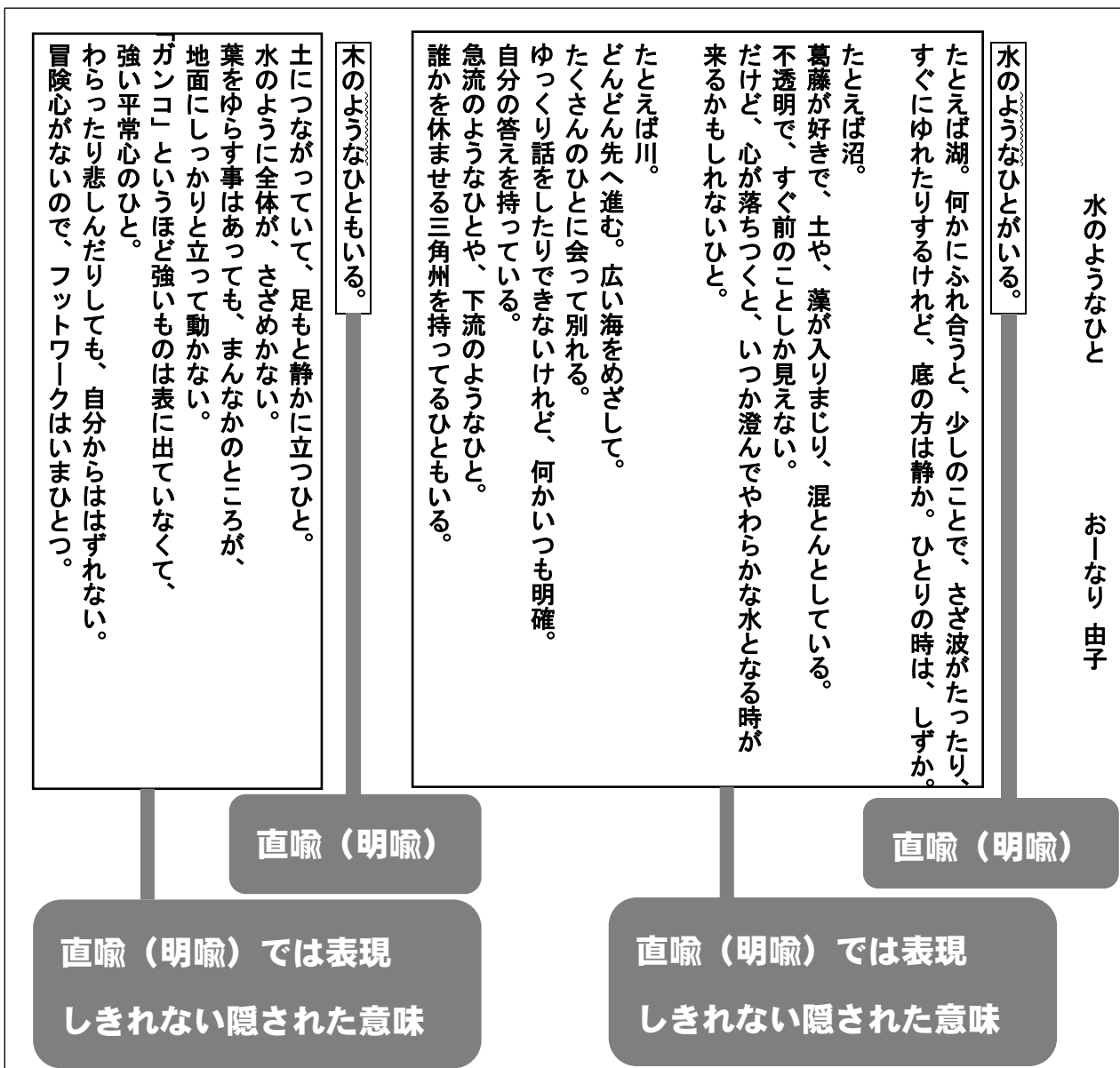
### 「少年の日の思い出」ストーリーライン





# 「水のようなひと おーなり由子」(教科書P14)

## 解説



比喩表現がたくさんに使われた口語散文詩です。比喩には「直喩（明喩）」「隠喩（暗喩）」「擬人法」の三種類があります。各連の最初の多くは直喩（明喩）【～ような】が使われていますが、その後の表現は「隠喩（暗喩）」のような表現になっている味わい深い作品です。

### 発展課題

詩「水のようなひと」の表現を参考に、比喩を使って、自己紹介文を書いてみましょう。その際、「～のようなひと」で自分自身を表してください。国語ノートや自学ノートに書いてもよいし、パソコンで制作し、プリントアウトしてもよいです。



### 【発展課題のヒント】

P18「学びの道しるべ」を参考に学習しましょう。

自分自身がどんな性格なのか、家の人にインタビューしてもよいでしょう。「水」「木」などの自然物にこだわらず、動物などにたとえてもおもしろいでしょう。



# 「間の文化」 長谷川 權 (教科書P20)



## 解説

結論	本論の まとめ	本論3 「心理的な間」 について	本論2 「時間的な間」 について	本論1 「空間的な間」 について	序論	
		形式段落⑪ 形式段落⑩	形式段落⑧	形式段落⑤ 形式段落④ 前半 形式段落③ 前半	形式段落①	日本文化 の例示
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <span style="font-size: 2em;">◀</span> <span style="font-size: 2em;">▶</span> </div>						
			形式段落⑦	形式段落④ 後半 形式段落③ 後半		西洋文化 の例示
形式段落⑮ 形式段落⑭	形式段落⑬ 形式段落⑫	形式段落⑨	形式段落⑥	形式段落②		説明・ まとめなど

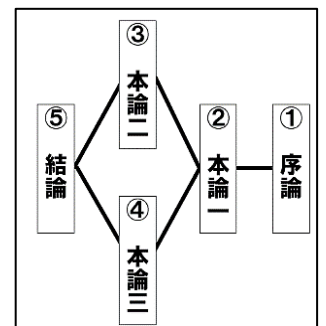
「日本における『間の文化』というものは、異質なもののどうしの対立をやわらげ、調和させ、共存させることを実現させるためのものである」ということを述べた説明文です。「空間的な間」「時間的な間」「心理的な間」の三つを挙げ、日本文化と西洋文化を対比させながら説明が進んでいきます。形式段落ごとの内容を整理すると上の表のようになります。この説明文は「日本の文化」と「西洋の文化」を対比させているところが大きな特徴です。



### 発展課題

説明文「間の文化」を読み、例を参考に段落構成図を作ってみましょう。  
段落構成図とは本文の構成を形式段落ごとに図にしたものです。段落構成図は国語ノートや自学ノートに書いてもよいし、パソコンで作成しても構いません。その際、次の三つの条件を満たしましょう。

- ① 「序論」「本論」「結論」の構成を明らかにすること
- ② 「空間的な間」「時間的な間」「心理的な間」の構成も明らかにすること
- ③ 「日本文化の例示」「西洋文化の例示」を対比させた構成にすること



段落構成図 例

### 【発展課題のヒント】

P26「学びの道しるべ」を参考に学習しましょう。  
形式段落は15です。上の表と対応させながら作成してみましょう。

教科書を出版している三省堂から、ここに紹介した教材の解説動画や家庭学習用の問題・答えのプリントデータがアップされています。参考にしましょう。

<https://tb.sanseido-publ.co.jp/homelearning/>